

■最近の話題を考える“知財NEWS”知財トピックス(2018.12)

中国、各種知的財産権の出願件数が、いずれも世界最多に

特許業務法人 前田特許事務所  
弁理士 大石憲一



今回の知財ニュースでは、2017年の中国の各種知的財産権の出願件数が、世界一になっていることについて、取り上げたいと思います。



出典：WIPOホームページ

世界知的所有権機関（WIPO）が、3日公表した2017年の年間報告書「グローバルイノベーションインデックス（GII）」によると、特許出願の受け付け国・地域当局別件数は、中国が138万件で全体の4割強を占め、7年連続の首位。また、商標出願が570万件で首位、意匠出願も62万件で首位でした。

上の図の件数を見てみると、特許出願が2位であるアメリカでさえ、2倍以上の差を付けられており、中国が断トツで知的財産権の出願が多いことが分かります。このことは、中国が正に知財大国になった結果だと思えます。

つい数年前まで、中国企業が日本の知財を盗んでいるというニュースを良く聞いていましたが、そのことが遠い昔のような中国知財の現状です。

現在、アメリカのトランプ政権は、中国が知財権を侵害しているとして、様々のものに関税をかけて圧力を掛けていますが、この出願件数の現状を考えると、あと数年後には、逆に、アメリカが倍返しで知財権侵害を理由に関税を掛けられるのではないかと危惧します。

これから中国で商品を製造販売して行く場合には、「知財権侵害の被告」になる可能性が十分にある状況になっていることを、認識しなければならないと思います。

以上